

クリーン環境サミット 2012・WasteMET Asia 2012 ～成長するアジアの都市における革新的な環境ソリューション～

シンガポール事務所

人口の急激な増加、経済成長に伴い、アジアの都市は急激な都市化を迫られています。都市化とともに廃棄物処理、大気汚染、公衆衛生等の課題が顕在化し、これらを解決するための費用対効果が高く、革新的な技術やサービスが求められています。

クリーン環境サミット (CleanEnviro Summit Singapore 2012) は、各国から政府高官、政策担当者、産業の要職者が集まり、都市が抱える環境問題の解決策、新しい技術などについて意見交換をする場として今年初めて開催されました。クリーン環境サミットとあわせて、アジアの都市が直面している廃棄物処理問題に焦点を当てた「WasteMET Asia2012」も今年初めて開催されました。会場には、94 社・団体が最新の廃棄物処理技術、廃棄物固形燃料、リサイクル技術などを展示、国別パビリオンは、シンガポール、カナダ・ケベック、オーストラリア・ニュージーランド、ドイツ・オーストリアの出展がありました。日本パビリオンはありませんでしたが、日本企業は数社出展していました。

クリーン環境サミット概要

開催期間	2012 年 7 月 1 日 (日) ～7 月 4 日 (水)
開催場所	マリーナベイサンズエキスポ・コンベンションセンター
テーマ	成長するアジアの都市における革新的な環境ソリューション
主催	国家環境庁 (National Environment Agency) シンガポール廃棄物管理・リサイクル協会 (Waste Management & Recycling Association of Singapore)
主な内容	*クリーン環境リーダーサミット【招待制 (約 300 人)】 *クリーン環境政策担当者会議【招待制】 *WasteMET Asia 展示会・会議 *Business Exchange Sessions (中国、マレーシア、タイ、インドネシアの廃棄物処理の現状と課題に関するセミナー) *現場視察ツアー (シンガポール内の清掃工場・廃棄物発電工場・埋立地などの視察)
主な出席者	石原慎太郎東京都知事 Dr.Vivian Balakrishnan シンガポール環境・水資源省大臣 (「クリーン環境サミット・World Cities Summit・国際水週間合同開会総会」に出席)

アジアの都市が抱える廃棄物処理問題～マレーシア・タイ～

WasteMET Asia2012 会場内で開催された、主に廃棄物処理産業の関係者を対象としたセミナー (Business Exchange) に参加しました。マレーシア住宅・地方自治省国家廃棄物処理局長 Dr.Nadzri よりマレーシアの廃棄物処理は、2007 年に制定された「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、連邦政府に権限が委ねられていること、収集については、民間委託されているなどの説明がありました。マレーシアでは、直接埋立処分が主流ですが、環境面の問題、埋立地の不足などから、中間処理施設の整備が急務であり、来年には焼却処理施設の国際入札を予定しているとのこと。過去にクアラルンプールに大きな焼却処理施設の建設を予定していましたが、費用の問題、近隣住民の反対により計画が中止となったとのこと。経済成長による消費の拡大により廃棄物量が増加しているマレーシアでは、廃棄物処理インフラの整備が急がれますが、費用面、建設予定地周辺住民との合意形成が懸案事項となっているとのこと。

タイ天然資源・環境省公害対策局の Patarapol Tularak 氏からは、電子機器廃棄物の収集、リサイクルに関する課題が紹介されました。タイでは、使用済みの家庭用電子機器の収集が進んでおらず、収集率を上げるために様々な取組がなされています。また、収集された電子機器のリサイクル施設も不足しているとのこと。営利目的の業者が収集した電子機器を不当に処分するケースも散見しているため、収集、運搬、リサイクルのシステム確立が急がれるとのことでした。

マレーシア、タイとも、廃棄物発生量の抑制のための住民教育・システム、処分に伴う環境負荷の軽減、廃棄物発電などの技術が求められているようです。

清掃事業による国際協力～東京二十三区清掃一部事務組合～

クリーン環境サミットには、東京二十三区清掃一部事務組合 (以下清掃一組) が招待を受けて出席していました。特別区及び清掃一組は、今年 5 月に「東京 23 区清掃事業の国際協力に関する基本方針」を策定し、環境・廃棄物問題に直面する海外諸都市への国際協力を展開する方針を定めました。特別区と清掃一組が連携し、収集・運搬から中間処理まで一体となった支援を展開します。清掃一組では、これまでも年間 3000 人ほどの海外からの視察者を受け入れてきましたが、今後は人材交流 (研修生受入・技術者等派遣)、コンサルティングなどの国際協力を実施し、将来的な海外での事業展開も視野に調査・研究を更に進めるとのことです。

また今年度は、マレーシアから研修生を受け入れる予定とのこと。きっかけとなったのは、昨年秋清掃一組の管理者及び副管理者がマレーシアを訪れ住宅・自治大臣と会談するとともに国家廃棄物管理局長と人的交流などの書簡の交換を行ったことによるそうです。その際、清掃事業の推進には住民との合意形成が鍵であり、特別区や清掃一組などが住民との合意をもとに工場建設や施策の推進を行っていることに関心を示され、自治体が持つ技術のみならず住民への説明のしかたや政策立案など、総合的なノウハウを期待しているとの表明もなされたようです。

クリーン環境サミット、WasteMET Asia を視察し、経済の発展とともにアジアの都市が

直面する環境問題、廃棄物処理の問題解決にあたっては、日本の自治体が有する技術、ノウハウが非常に有益だと感じました。また、清掃事業による国際協力を通じて、アジアの都市に日本の技術、製品が導入されていく素地を整えることにもなり、先進的な日本の環境産業の海外展開にも可能性があると感じました。

(新山所長補佐 東京都大田区派遣)

